

10 社会への活用を実感できる6年の学年末

6年学年末「ひろがる算数」

キャリア教育の一環として、算数が様々な職業につながっていることが実感できる内容を紹介しています。

社会で活躍される5名の方にインタビューを行い、今のお仕事に算数がどのように活きているか教えていただきました。

アーティスト
野老 朝雄さんピアニスト
中島 さち子さんスポーツデータの収集・活用
岡田 昇峰さん古生物学者
佐藤 たまきさんパティシエ
小山 進さん

6年 p.244



みなさんは、おかしをつくることがありますか。おかしくりては、算数で学習したことたくさんあります。

おいしいおかしをつくるためには、手早さ、ていねいさ、正確さがたいせつです。そのため、レシピには、材料の分量、焼く時間や温度などが正確な数でかかれています。



重さをはかりながらおかしをつくるようす



きまった時間と温度でおかしを焼くようす

新しいおかしは、どのようにして生まれるのですか？

わたしのお店には、例えば道で出会った花の香りや、子どものころに好きだったこんぶの色をヒントにして生まれたおかしがあります。

新しい味を生み続けるには、日常の中でいろいろなことに興味を持ち、「なぜだろう」と探求する気持ちがたいせつです。

たくさんのおかしをつくるのに、どんなふうをしていますか？

新しいおかしは、たくさんつくる前に、まず少量で試作します。そのときには、レシピに分量などを正確に記録します。

例えばその分量を10倍にすると、10倍の数のおかしになりますが、たくさんつくったときにもおいしい変わらないように、さまざまな調整をくりかえします。

244

6年 p.236

ひろがる算数

アーティスト
野老 朝雄さんと聞く
アート×算数

TOKYO 2020
パラリンピック

東京2020
パラリンピック

みんなさんは、どんな美しいものと出会ったことがありますか。美しいものには、算数や数学がかかっていることがあります。

わたしは、紋様をテーマにして作品をつくっています。東京2020オリンピック・パラリンピックのエンブレムもその1つで、世界のいろいろな人がつながることを表現した作品です。

下の作品は「人」という漢字でつくった、熊本地震の被災住宅支援プロジェクトKASEIで使われたものです。この作品も人とのつながりを表現したものです。

人 一
KASEI

九州建築学生仮設住宅環境改善プロジェクト(KASEI)

紋様は、どのようにしてつくっているのですか？

算数の学習で、しきつめもようをつくったことがあると思います。それに似ています。しきつめられる形が1つつかると、その形を変形したり、その形の中にちがう形をかいりして、さまざまに発展させることができます。

しきつめの形そのものの美しさや、美しく見える形

東京2020エンブレムには、どんなくうがありますか？

エンブレムをよく見ると、2種類の長方形と1種類の正方形がたくさん並んでいます。この長方形と正方形は、それぞれ2種類のひし形と1種類の正方形の中にかいした形です。それを、大きな正十二角形の中心にしきつめることで、エンブレムのような紋様がうまれます。このように、数学的な考え方や考え方を使って、美しさを追究しています。

とり上げたテーマは、アート・音楽・スポーツ・化石・お菓子の5つです。

インタビュー動画は
こちらからチェック！

